

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】H23 (A-Ⅱ) H24 (Ⅰ) H24 (Ⅱ) 【AIMS】H25／ 京都大学

■プログラム名

「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築

---以下、マレーシア・インドネシア・フィリピンに特化した内容を主に記載ください。---

■相手大学・機関（国名も記載ください）

アセアン大学連合（AUN）加盟の10か国・30大学及びカセサート大学（KU、タイ）

■主な活動内容（概要）

京都大学とAUN加盟大学でコンソーシアムを形成し、地球規模で発生する深刻かつ多様な課題の解決に貢献し、国境を越え地域と共鳴し相乗効果を生み出す実行型国際人を育成する事を目的とし、(1)学部学生のサマースクール、(2)修士課程における多層的な協働教育プログラム（①単位互換可能な講義群の開発、②ダブルディグリープログラム（DDP、2年課程、3年課程）、③共同指導型シングルディグリープログラム（SDP））を構築し実施する。

■プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください）

現状・課題

- ・サマースクールは、KUとは毎年双方向での派遣・受入を実施し、他にインドネシアへも派遣した。また、AUN事務局を通して加盟大学全体から参加者を募集し7か国16大学から23名を受入れた。
- ・協働教育プログラムの必須科目となる共通科目（「人間の安全保障特論」「東南アジア地域論」）を設置した。
- ・DDPはAUN主要5大学（チュラロンコン（タイ）、バンドン工科（インドネシア）、ガジャマダ（インドネシア）、マラヤ（マレーシア）、シンガポール国立（シンガポール））及びカセサート大学（タイ）と実施し、SDPは5大学を除いたAUN加盟大学と実施する。
- ・DDPでは、京大と各大学間でダブルディグリー実施協定書を調印し、その後参加研究科（農学研究科、エネルギー科学研究科、医学研究科社会健康医学系専攻）と相手大学の学部との間でProgram Descriptionを結び、さらに学生ごとにLearning Agreementを作成している。
- ・SDPでは、AUN事務局を通して参加学生を年4回募集し、今年度第1回分としてチェンマイ大学（タイ）、カントー大学（ベトナム）から計4名を受け入れる予定。
- ・DDPに参加する日本人学生にとって就職活動がネックとなっており、就職支援が必要。
- ・DDP相手大学・学部の拡大・整備。

成功事例

- ・AUN主要5大学との間で、単位互換制度を活用した協働教育プログラム（3年課程DDP、2年課程DDP）を構築した。
- ・上記の共通科目2科目を日本の大学として初めてAUN-ACTSに登録した。